
君といつまでも。

藍色草

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君といつまでも。

【Nコード】

N8989F

【作者名】

藍色草

【あらすじ】

他校にもファンクラブがあるほどの二人組、檜山優と愛田洸。優は美少年。愛は美少女。でも二人には秘密があった。実は……。男装に女装、はたまたトリップ。可笑しな二人の繰り広げるびっくり、でもほのぼのな物語。

プロローグ

「なあ、俺って可愛いかなぁ??優」

「めちやくちや可愛いよ・・・愛。」

「「はあ・・・」」

プロローグ・二人の諸事情

ここはあるコトで有名な中学・・・塔条中。

あるコトとは・・・

『キヤーーーーー!!!!優様ああ!!!』

『愛さん・・・今日もかわいらしい!!!』

そう、他校にもファンクラブがあるほどの二人組、ヒヤマユウ 檜山優とアイダコウ 愛田洸である。

優はモデルも顔負けのスタイルと顔をあわせ持つ美形少年。

愛は全国の女子が羨むであろう小柄な体系とアイドルに匹敵・・・、いや、それ以上の顔で、こちらも美少女。

・・・だが、これは皆の憶測に過ぎない。

そう・・・

優は女で・・・

愛は男なのだ・・・！！

そんな感じの二人の諸事情。

第一話

「女の子にモテる僕って・・

「男にモテる俺って・・

不幸」

第二話・いつもの不幸に別の不幸、他の人には幸かも？」

「愛さん、おはようございます!! お荷物お持ちいたしましょうか
??」

「うっん、大丈夫。ありがとう」

「か、可愛い・・。」

「優様、おはようございます!!」

「うん、おはよう。様付けなんて良いのに・・。」

「お優しい・・。」

「『なにより、素敵・・。』」

「おい・・・、あいつら全員うぜーんだけど・・・。」

「こら、愛。もっと小さな声で!!」

二人の会話はぼそぼそと行われている。

「だってよー、男の俺に可愛いつて、しかも男どもがだぜ!？」

お前だって、女に格好いいっていわれてばっかで悔しくねーのかよ
!!」

「だから、しー!!」

・・・別に嬉しい訳じゃないけど。でも、愛が分かっててくれる
から、充分だよ!!」

ね???

「そ、そうか。おおお前が良いっつーんなら良いんだけどな。」

笑った優に照れてどもりながら話す愛。

「あれ?大丈夫?顔真っ赤だよ??」

優は追い討ちをかけるように自身の額と愛の額をくつつける。

ちなみに優は決して鈍感ではない。

むしろ敏感なのだがこういうことにかんして、とくに自分のコトと
なると有り得ないほど鈍感なのだ。

以前、愛が真っ赤になって「俺、お前のコト好きなんだけど・・・。」
と言ったのに対して、

「うん、ぼくも好きだよ。」と答え、有頂天になりかけた愛に「だ
って僕ら親友でしょ?？」

などと続けて一気に愛をどん底に落としたコトがその証拠だ。

ちなみに不意にそのコトを思い出し、意識されてないんだ、俺・・・。

と、この後愛が落ち込んで、優が慌てたとか、慌てなかったとか。

優が愛と額を付けていたところを見た面々は

『キヤー!!! 優様と愛ちゃんがああ!!! だれか写メ、写メを撮って
!-!』

『顔を真っ赤にしてる愛さんも、可愛いなあ・・・。』

などといった。

第二話

「う、うわぁ・・・」

「あー！！クソッ・・・」

いい加減しつこい。」」

第三話・服装を変えるか変えないか

朝：皆に騒がれながら登校。

昼休み：皆に騒がれながら昼食。

放課後：皆に騒がれながら下校。

「って、

俺ら学校でプライパシーもなにも無いじゃねーかあああ！！！！」

ガンッ

愛が壁を蹴る。

そつ、ここは所変わって愛の部屋。

二人ともこのコトに関しては二年目だが、いまだになれないのだ。

「愛、どうどう・・・。」

「優、だってさあ・・・。」

「うーん・・・。あ！そうだ！！」

「な、何？？」

急に大声を出した優に驚きつつも話すよう促す愛。

「じゃあさ、僕らのコトばらさな」駄目。「・・・なんでさ・・・？」

いいアイデアだと思ったのに・・・などと言っている優を尻目に愛は考えていた。

「（今更元に戻る？！ふざけんな！俺は男子用制服で優は女子用制服？！！）

・・・いんじゃない？優、可愛いじゃねーかあ！！それが毎日拝めるのはいいかも。

はっ！！でも待てよ？優って素がいいから他の男がちかよんじゃないか？

だ、駄目だ・・・！！！！）・・・っコトで、駄目だ。」

「服が??」

「え、ええ!?俺、口に出てた??」

「うん。女子用制服がいいと言っててさあ、そんなに女子の服が着てたかったの??」

「いや、ちがつ、ちょ・・・。」

「照れるな照れるな!僕もスカートよりズボンのほうが良いし。だから・・・」

「ストップ!!違う!俺が言いたかったのはこの制服が可愛いから他のよりはましだよなーっておもって。別に好んで着てたい訳じゃない!!」

慌てて遮り喋りだす愛。

「なんだ、そういうことか。」

「(あ、あぶねー!!女装好きの変態とか思われなくて良かったあー!!!!)」

危機は去った、とばかりに汗を拭く素振りを見せる愛だが、

「あのさ、久しぶりに服を交換して街に行かない??」

「・・・」

またもや優が提案したことに冷や汗をかく始末。

なんとかそのままの格好で行くことに妥協してもらった愛だが、

この先でもっと大きな不幸が待ち受けていることはしるよしもなかった・・・。

「買い物、楽しみだなあ・・・」

「・・・」

第三話

「え、ここってまさか・・・

「見てのとおり！

女服売り場！！」

第三話・さっきの俺の苦労は・・・b y 愛

愛視点

「ねえねえ！これ似合うかな？」

似合うよ。

「ああ

「これは??？」

サイコーだよ、それ。

「いいんじゃない？」

「これはどうかなあ?？」

お前のためにつくられたみたいだな。

「買えば?」

「・・・これ。」

ふーん・・・ん?

「これ。って、ここに、これ着んのか?!」

そう、俺が指差したのはピンクのミニスカート。

ゆ、優、これマジで着んの?!

・・・やべえ、いい。よすぎ。

でも・・・他の男の目が・・・!!

「やめた方がいんじゃない?」

そつ。俺はこんな言葉しかいえない。

本当は

『それは素敵だけど、それを着た優を他の男にはみせたくないから・

・

それはやめろよ。』

とまで言いたい！！

でも、案の定優は傷ついた顔してる。

俺のせいだ。

何とかしなくちゃ！！

「なあ、優・・

「わかってるよ。」

・・え？」

優、泣いてる？

「僕に、女らしい服が似合わないことぐらい、わかってるよ！！」

でも、でも！愛ならお世辞でもほめてくれるって！

．．．．．そう思ってたから。

でも、ちがった、ね．．。

．．ごめん、さき帰るね．．！」

ダッ

オレの馬鹿！！好きな子のこと傷つけて、小学生みたいじゃないか！

すぐ追いかけなくちゃ！

待てよ．．

行くなよ．．

優！！

はあっ．．いた！

「優! ! !」

「! ! ! . . . 愛」

優は俺たちがよく行く公園に居た。

「はあっ . . . 優! !」

逃げんなよ . . . ! !」

謝るから。

第四話

「優、ほんとにゴメンっ・・・」

「愛、もういいからさっ・・・」

あと、ありがとう」「

第四話・凄く、凄くうれしかった・・・by 優

優視点

「!!!!・・・愛」

なんでだろ・・・胸がズキズキする・・・

「はあっ・・・優!!」

逃げんなよ・・・!!」

愛・・・追いかけてきてくれたの？

気、使ってくれたんでしょ???

「愛、もう・・・」

「ごめんっ!!」

「・・・・・・・・・・え?」

「悪かった・・・。俺、お前の気持ちも考えないで・・・、最低だよな?」

愛「・・・いいよ・・・」

似合ってなかったのはホント、だから・・・

「ホントごめん!!」

あと・・・

え〜っと、あれだ、その・・・」

?

愛「もういいのに・・・。」

「に、」

「に?」

赤くなりながらそういった愛は

いつもの女の子みたいな可愛い顔じゃなく

男の子の顔に見えて

何故かドキドキした。

「・・・愛、ありがとう!!」

さっきまでの、ズキズキは消えて、代わりにドキドキ。

やめろって言われたとき、凄くショックだったけど

今似合ってるって言われて、本当にうれしかった。

不思議。

他の人に似合っていないって言われたとき、多少は傷ついたし、

似合ってるって言われたときはうれしかったけど今のとは比べ物にならない。

本当に不思議。

いったいなんなんだろう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8989f/>

君といつまでも。

2010年10月9日17時42分発行